

(提案様式 1 )

平成 24 年 1 月 16 日

# 提 案 書

申請団体名 地球と家族を考える会

代表会社名 合同会社地球と家族を考える会

代表者名 嶋影 健一

代表者住所 郡山市開成 4-28-17

電 話 : 024-923-5400

F A X : 024-923-4829

主な活動地域（複数ある場合は優先を付けて①,②…,⑧と表示してください）

※会社の現住所ではなく、住宅供給活動を行う地域としてください



喜多方



県北③



相双



会津若松⑤



県中①



南会津



県南②



いわき④

団体内の総会社数 (        社)

総業種数 ( 25種 )

	代表設計事務所	代表工務店	林業・木材関係事業者
会社名	有限会社建築工房	株式会社福産建設	株式会社ツネマツ
住所	郡山市開成 4-28-17	石川郡石川町双里字 桜町 20	岩瀬郡天栄村大字 白子字内神 26
電話番号	024-923-5400	0247-26-3355	0248-83-2311
代表者名	嶋影健一	吉田一治	常松義久
設計事務所登録番号／ 建設業登録番号／ 木材業者登録番号	第 12(912)0265 号	(特-22)第 11133 号	第 22067 号

(提案様式2-1)

**連携団体内会社一覧**

<b>設計事務所 4社</b> ※提案様式2-2に記載した数を含む				
No.	会社名	本社所在市町村	代表者名	主な分野
1	(有)建築工房	郡山市	嶋影健一	意匠設計
2	平田建築設計事務所	いわき市	平田茂	意匠設計
3	(有)辺見美津男設計室	白河市	辺見美津男	意匠設計
4	伊達な建築研究所	伊達市	田中直樹	意匠設計

<b>施工 6社</b> ※提案様式2-2に記載した数を含む				
No.	会社名	本社所在市町村	代表者名	職種
1	(株)福産建設	石川町	吉田一治	建設土木
2	(株)保土原屋	須賀川市	宗形保晴	建設業
3	(有)安部建設	二本松市	安部義一	建設業
4	クレハ錦建設(株)	いわき市	国井秀一	建設業

<b>林業・製材業 4社</b> ※提案様式2-2に記載した数を含む				
No.	会社名	本社所在市町村	代表者名	業種
1	(株)ツネマツ	天栄村	常松久義	製材業
2	(株)オノツカ	郡山市	小野塚省一	木材加工業
3	福島県郡山地区木材製材協同組合	郡山市	小松吉昭	製材業
4	福島県郡山地区木材木工工業団地協同組合	郡山市	小松昭人	木材加工業

<b>資材メーカー 9社</b> ※提案様式2-2に記載した数を含む				
No.	会社名	本社所在市町村	代表者名	主な取扱
1	(株)東北エアコン	須賀川市	草野修	衛生設備
2	岡部電設(株)	郡山市	岡部義浩	電気設備
3	環境建材	郡山市	吉田孝幸	建築建材
4	田村建材(株)	いわき市	田村哲郎	建築建材

<b>宅建業 1社</b> ※提案2-2に記載した数を含む				
No.	会社名	本社所在市町村	代表者名	備考
1	ベストファーム	石川町	斎藤浩一	不動産
2				

(提案様式 2-2)

その他 <u>31社</u> ※提案様式 2-1 に記載した数を除く				
No.	会社名	本社所在市町村	代表者名	業種
1	(有)新建設技術設計	郡山市	折笠正和	測量・土木設計
2	サンコー地水(有)	郡山市	佐藤忠廣	地質調査
3	要田造園	郡山市	要田安広	造園
4	(有)安藤工業	須賀川市	安藤聰	曳屋・土木
5	石森工務店	玉川村	石森敏春	建設業
6	ウッド工房	郡山市	桑原正好	家具・建具
7	S・K工業	郡山市	佐々木美智雄	屋根・板金
8	(株)エイタック	福島市	八島征彦	左官
9	(株)葉月	郡山市	森村秀夫	建材(サッシ)
10	(株)カヨウ	郡山市	福岡正巳	薪ストーブ
11	環境創機(株)	東京都	友伸平	ソーラーシステム
12	(株)佐川商店	古殿町	佐川悟一	林業
13	エコライフ(株)	郡山市	相馬晴司	建材(断熱材)
14	パルティオソフト(株)	郡山市	菅野和裕	I T ソフト
15	(株)フレックス	郡山市	山西一紀	企画デザイン
16	(有)桃季社	会津若松市	秋月直道	設計
17	(有)デザインプラス一級建築士事務所	郡山市	増子順一	設計・フィンシャル アシスタント・不動産
18	高田産商(株)	棚倉町	藤田裕太郎	資材商社
19	滝谷建設工業(株)	大沼郡三島町	目黒通浩	建設業
20	(有)安部直人建築研究所	郡山市	安部直人	設計
21	(有)三春設計舎	三春町	三瓶一壽	設計
22	(有)菊池設計	福島市	菊池進	設計
23	Y u 工房	郡山市	三坂恭一	設計
24	Y's 設計室	郡山市	柳沼広美	設計
25	東邦銀行	福島市	北村精士	金融
26	須賀川信用金庫	須賀川市	長谷部一雄	金融
27	日本大学工学部建築学科	郡山市	浦部智義	准教授

※提案様式 2-1 に記載できない会社を記入してください。

今後、連携を検討している業種及び会社数

業種	会社数	業種	会社数
建設業	5 社		
設計	5 社		
資材メーカー			

(提案様式 3)

## 団体の活動内容（実績）

団体の過去 3 年間における活動内容 【 住宅には『木造公営住宅』含む 】

### 1. 年間住宅設計棟数（団体内の設計事務所合計の 3 年間平均）

6 棟	うち、設計性能評価取得	2 棟
	うち、長期優良住宅の認定	2 棟

### 2. 年間住宅新築施工棟数（団体内の工務店等合計の 3 年間平均）

35 棟	うち、建設性能評価取得	0 棟
------	-------------	-----

### 3. 年間住宅増改築施工棟数（団体内の工務店等合計の 3 年間平均）

30 棟
------

### 4. 年間土地販売件数（団体内の宅建業等合計の 3 年間平均）

32 件
------

### 5. 県産材・地域材の活用実績（○をつけてください）

- Ⓐ. 材料の半分以上は県産材・地域材を活用      b. 建て主の要望に合わせて対応  
c. 材料があれば県産材・地域材を活用      d. 県産材・地域材は活用したことはない

### 6. 再生可能エネルギーの導入（○をつけてください）

- Ⓐ. ほぼ 100% 導入している      b. 建て主の要望に合わせて対応  
c. 利用したことはない

### 7. 景観、地域特性への配慮（項目ごとに○をつけてください）

- Ⓐ. ほぼ 100% 配慮している      b. 建て主の要望に合わせて対応  
c. 配慮したことはない

### 8. 各種手続き等代行（項目ごとに○をつけてください）

- |     |     |     |     |
|-----|-----|-----|-----|
| ①登記 | ②減税 | ③融資 | ④保険 |
| Ⓐ.  | Ⓐ.  | a.  | a.  |
| b.  | b.  | Ⓑ.  | Ⓑ.  |
| c.  | c.  | c.  | c.  |
- 代行（協力）を常にしている  
建て主より依頼があればしている  
行っていない

### 9. 施工した住宅の維持管理（○をつけてください）

- Ⓐ. 期間を定めて点検      b. だいたいの期間が過ぎたら点検  
c. 建て主の依頼に合わせ点検      d. 点検業務は行わない

### 10. 住宅情報履歴の作成（○をつけてください）

- Ⓐ. 新築だけでなく、増改築時も作成      b. 新築時のみ作成  
c. 要望があれば作成      d. 作成したことがない

### 11. その他、実績の PR（カッコ内を参考にし、削除して記載してください。）

「長期優良住宅」「設計・建設性能評価」「県産材の安定確保」「被災者の住宅相談」「団体の連携を広げる（NPO 法人の認定等を取得する）」「展示場建設」「若手の育成」「団体独自の技術（工法）を開発・普及」「地域産業の活性化に寄与する活動」「省エネルギー・再生可能エネルギーの活用」「住宅履歴情報」「仮設住宅建設」

(提案様式 4－1)

## 団体の基本方針・具体的手法

※「基本方針例（別紙Ⅱ）」を参考にしてください。

### 1. 連携体制の規模、多様性

(基本方針)

- ・コアとなる「地球と家族を考える会」は県産無垢材を活用して伝統工法で地産地消の家づくりをする職能集団である。林業から製材、設計、地質調査、測量、土木、設備、板金～造園まで、家一軒建てるのに必要な業種が、材料供給から建方、庭造りまで網羅され、プラス、IT関連や企画デザインまで 24 業種で構成する。今回、被災者の生活再建・地域再興のため、更に設計・施工の人員が加わり、不動産関係～資金相談まで多彩な顔ぶれが揃い、被災者の暮らしを「住」から応援するものである。

(具体的手法)

- ・各地に責任会社を置き、そこを中心に小さな工務店の力を結集する。
- ・責任会社を中心に地域の林業、製材所と連携し安定供給を図る。
- ・やる気のある会社が参加できる仕組みを作り、会則に反映させる。

### 2. 事業の実現性（供給計画 3カ年程度）

(基本方針)

- ・震災以前の家造りに加え、震災後は仮設住宅、高齢者サポート拠点造りで協力体制を確固たるものにしたことで、連携体制の取り方、利便性を確認してきており、その実績と経験値により、さらに連携が強固となって被災者により良い住まいを提供できる。
- ・木の家造りにとって最も重要な材料である自然素材の品質には、信頼関係が必要不可欠な木材関連業者との連携プレーが確実である。

(具体的手法)

- ・過去 3 年間で約 100 棟の住宅を供給してきた実績があり、更に設計、施工人員の増加、加えて、木の家を構成する最も重要な要素である木材の安定供給が確実なものであるため、年 30 棟は供給可能である。
- ・各地域で責任の持てる業者と連携することで、地産地消の木の家にとって大切なアフターメンテナンスが確実に行えることにより、長期的に安心して暮らして頂ける住まいを供給できる。

### 3. 復興住宅コンセプト（維持管理、プラン、環境対応、コスト、地域性等）

#### （基本方針）

- ・住宅コンセプトの最重点ポイントはシックハウスに無縁な素材・構法であること。
- ・維持管理はアフターメンテナンスの担当を明確にし、定期点検はもとより、トラブル対応が的確に行える。問題解決に関しては自社内で対応可能なため迅速で信頼性が高い。
- ・プランはあらゆる世代に対応するユニバーサルなデザインを基本とし、且つ、メーター モジュールにより、ゆとりのある動線を実現する。更にライフステージに合わせた増改築を容易とする。
- ・コストは現場施工の工期の短縮を図り、使用する木材の種類を少なくすることで抑える。
- ・耐震耐久性の高い、伝統構法の木組みは、百年住宅を可能とし、産廃となる頻度が低く、資源・エネルギーの削減が可能となる。間伐材を使用するため適正な森林保全を促進し、無垢材の木の家は炭素を固定することで地球温暖化の抑制に貢献する。
- ・地域材を活用することは地域の気候風土に高い耐久性を保ち、生活者の体に合う（身土不二）。

#### （具体的手法）

- ・県産無垢材を活用した木組みが基本であり、接着剤は米糊を使用、新建材の利用を最小限にすることアトピーの家族にも安心な住まいを提供する。
- ・自然素材を基本にしており、環境に配慮した住まいなのでコスト的な制約はある。しかし現在流通している一般住宅はおよそ30年弱の寿命である。当会の百年住宅と比較すれば、同じ年月で3棟建てなければならないことになり、2倍のコストをかけても当会の住まいは割安である。良質の住宅のストックとゼロエミッションを視野にいれた供給を進める。

### 4. 品質、性能確保

#### （基本方針）

- ・品質、性能を問う大きな理由は、建物の耐久性を確保することである。その模範となるのが古民家であり、そこから地震国ならではの伝統構法である「柔構造」が生まれた。当会の住まいは古民家を基本とし、良質な住まいに長く住み続けて頂くことである。それを担保するために長期優良住宅の仕様に順ずる。
- ・住まいの品質を左右する最も重要な木材（福島県産木材）の品質確保において、供給元が社内のメンバーであるため、信頼がおける。
- ・住宅情報履歴は、住宅の長寿命化に適切な点検や補修等の維持管理を行う体勢を作る。
- ・全員住宅瑕疵担保保険に入り、万が一のトラブルに対処する。

(具体的手法)

- ・杉の構造体の品質を左右するのは乾燥温度と含水率である。一般的には高温(120°C)乾燥が主流であり、内部は殆ど焦げてカラカラでヒビ割れを起こし、強度が低下している可能性がある。当会では低温(45°C)で乾燥し、含水率を20%以下に抑えるので生きた温かみのある色を保持した材で施工する。
- ・耐震性を確保するために、金物で「剛構造」にした場合、頻繁に地震が起こると金物(ビス類)の緩みや木材の破損が生じて元には戻らない可能性が高いが外部からは発見しにくい。古民家の伝統構法は「柔構造」であり、真壁のため、内部から点検が出来る。安全性は歴史が証明しているものと考える。

## 5. 県産材・地域材の活用

(基本方針)

- ・使用木材は県産材を主とする。部位により地域材使用も可とする。
- ・流通は一般市場流通材を使用するが、特殊材はその限りで無い。

(具体的手法)

- ・郡山地区木材製材協同組合運営中央木材市場流通材を使用する。また特殊材においても地区組合運営製材工場を利用する。中央木材市場集材は国有林・民有林からの出材を森林組合、民間素材業者による出材でありその地域は県内一円であるところから、県内木材関連業者くまなく関係者となりえる。また製材、乾燥加工は以下の県産材活用グループ「櫟」メンバー
  - (株)ツネマツ
  - 福島県郡山地区木材製材協同組合
  - 福島県郡山地区木材木工工業団地協同組合
  - 株オノツカ
  - ㈲滝澤木材
  - 二久室井木材店㈱が素材、製材、乾燥、加工と使用部材に関しすべて行う。

## 6. 各種手続き代行

### (基本方針)

- ・被災者の状況に合わせフィナンシャルプランナーが相談にのり、不動産の取得や登記などの代行をスムーズに行い、クライアントが安心して暮らせる環境づくりをお手伝いする。

### (具体的手法)

- ・メンバーの経験豊富なフィナンシャルプランナーや講師を中心に月1回位若者を中心にセミナーを行い、資産運用を含めたライフプランを通して住まいのあり方を考え、定住に繋がる提案をする。
- ・メンバー内で、土地の取得や登記等、全県下でスピーディに連携できる。

## 7. ふくしま（地域）らしさの取り入れ

### (基本方針)

- ・地元材を使用することで森林を再生し、かつてあった結いや地域循環に繋げたい。
- ・地域の気候風土に配慮した住まいづくりは地域に根差した地元職人達だからこそ仕事である。
- ・福島は浜・中・会津とそれぞれに違った気候風土である。
- ・中通であれば、多雪ではないが、寒さに対する対策を的確な断熱と太陽エネルギーの活用で対応する。
- ・いわき地区は1年を通じて穏やかな気候で、日本有数の日照時間であることから、太陽エネルギーを大いに活用してたエコな住まい造りを徹底する。
- ・会津地方は多雪が苦にならない家づくりを目指す。屋根や駐車場の雪対策は確実に行い、太陽エネルギーを大いに活用する。また、盆地であるため、夏の暑さ対策も自然エネルギーの活用で行う。

### (具体的手法)

- ・木材を地元で伐採し、製材も施工も全て地元で行う。これは、地元内での経済的循環と住民の連帯の意識を高め、環境も含めた伝統文化の見直しに繋げるもので、もともと地域にあった循環型社会を再現する可能性に挑戦。

## 8. 地域における先導性（活動）

### （基本方針）

- ・地域材での家づくりは確実な素材確保が重要な鍵である。これには地域内での連携体制が必要不可欠で、当会はすでに連携チームを組んで3年になる。これはこの地域のみならず、国内でも先進的な取り組みであり、これを浸透させる必要がある。
- ・大学の知の力を活用し、安全に暮らせる場所の選定と、被災者と受け入れ側のコンセンサスを得るために哲学塾を開催し、被災者の生きる気持を育み、新たな地域のあり方を考える。
- ・自力で自宅を再建できる人が、再建の難しい人を支援する仕組みをメンバーのファイナンシャルプランナーと共に構築していく。

### （具体的手法）

- ・民間の力を結集して「福の島を考える会」を立ち上げる。そこに地元大学の教授や県外の大学の先生にお願いし、雇用も含めたフクシマならではのモデルになる形を提案する。4月からスタートする準備中である。この会には地元の学生（大学、高校）も参加させ、地域の資源の調査を通して総合的な視野を獲得する手助けをする。
- ・再建する力のある人が土地に余裕がある場合、補助金により自宅と賃貸住宅建設の負担が軽くなれば、良質の賃貸住宅を計画することが可能となる。実現するには金利を行政が負担することで再建の難しい人を支援することができ、公営住宅建設の必要性がなくなる可能性もでてくる。様々なケースが考えられるため、ファイナンシャルプランナーの力を大いに活用したい。

**9. 原子力事故及び風評被害対応**

## (基本方針)

- ・情報が氾濫しているが、過剰に反応せずに、正しい情報を的確に入手し、それに沿った対応をする。
- ・入手した情報は、消費者に正しく、的確に伝達する。

## (具体的手法)

- ・森林・木材への放射能からの影響は、県や研究者から正しい情報を得て、安全性を確認し、クライアントの不安を解消するように材料の線量を測定し、検査証明書を提示する。

**10. 省エネルギー、再生可能エネルギーの活用**

## (基本方針)

- ・木の再生可能エネルギーを使用する。
- ・自然に合わせて生きることが、今人を「一步前へ」を後押しする。
- ・低炭素社会には森の再生と省エネルギーな暮らしは欠かせないものである。住まいはそれを後押しする強力な手段となる

## (具体的手法)

- ・循環型社会は省エネルギー社会であり、森林資源を循環させることが循環型社会を作っていく有効手段となる。現在危機的状況の森林を再生する一手段として、薪またはペレットストーブの再生可能エネルギーを活用するプランを標準とする。
- ・暖房は床と天井に温度が無いことが理想である。ストーブ熱による床下循環の機構を採用することが省エネに繋げる。
- ・資金に余裕があるクライアントには、パッシブソーラーの床暖(太陽+ストーブの組み合わせ)を勧める。
- ・木は永遠に枯渇することのない再生可能エネルギーの代表であり、水と空気と太陽エネルギーからできた素材である。当会の住まいは木の特性を最大限活用するため、構造はもちろん、内装も杉の無垢板(断熱性がある活用した省エネ、再生可能エネルギーの住まいを提供する。



## 「蘇る古民家」

今回の事故で学んだことは「自然を侮る傲慢さへの反省」と「自然の大切さや自然に生かされていることへの謙虚さ」ではないでしょうか。不安で地に足が着かないこの難局を乗り越えるためには、安全な場所で自然との関係性を見直し、再構築する必要があります。

今回提案したいのは1960年代まで残っていた自然界への畏敬に満ちた「自立循環型社会」です。そこでは「動植物を育て、自然の恵みを頂き」ながら、自然から家族が「古民家＝母屋と隠居」で守られ、家族の絆を大切に生きる力を育んできました。

もう一度古民家を蘇らせ、未来に向けて「母屋と隠居」を取り巻く環境を考えます。

新しい土地での生活が、被災者を前に向わせる原動力になることを願っています。

最初に「古民家」と「蘇る古民家」の基本性能の比較をし、マイナス面を確認しておきます。

### ■「古民家」と「蘇る古民家」の性能比較

	古民家	蘇る古民家	蘇る古民家の性能と対策
耐久性	100~300年	100年	杉の無垢材と伝統構法で100年を目指す
エネルギー	○	○	再生可能エネルギーと自然エネルギー
シックハウス	○	○	自然素材と米糊で対応
車椅子	×	○	バリアフリーとメーターモジュールで対応
住みやすさ	夏 ○ 冬 ×	夏 ○ 冬 ○	オールシーズン快適
ゼロエミッション	○	△	自然素材(リユース可能)中心だが、目指す
低炭素	○	○	自然素材と再生可能エネルギー
景観	○	○	日本古来の切妻を採用

### 1 長期にわたって利用できる基本性能

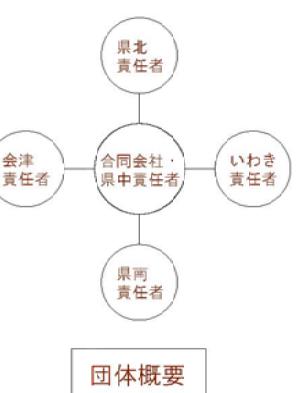
基本となる柱と土台、柱と桁梁の継ぎ手は古民家と同じ「込み栓」を用い、壁は金物に依存しない真壁構造体や貫などの柔構造で作られています。耐久性は古民家が証明しています。



● 通常流通している部材等により修繕可能  
構造体も含め仕上げ材は身の回りにある自然素材や市販されている物です。例えば120角の杉柱や12×120の杉板壁や土に還る自然素材などです。

● 維持管理の体制  
営業範囲を県全体に考えていますので、各地域に責任者を置き対応します。

● 生産・供給の合理化  
木材の供給については、川上(森組、民間素材業者)から川下(製材、加工業者)までの業者との協定ができるおり、県産材での量・品質とも供給可能です。



団体概要

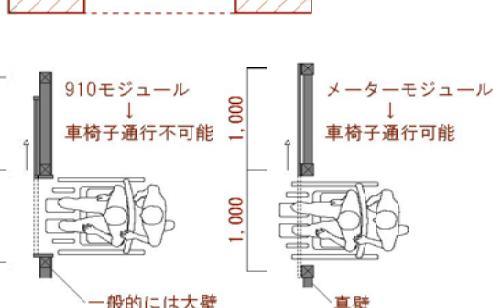
● 断熱等の施工方法を明確化  
床下のコンクリートにポリスチレンフォームを米のりで接着し断熱性を高めます。また壁や屋根はセルローズファイバーを吹込みます。



床下断熱材



壁断熱材吹込み



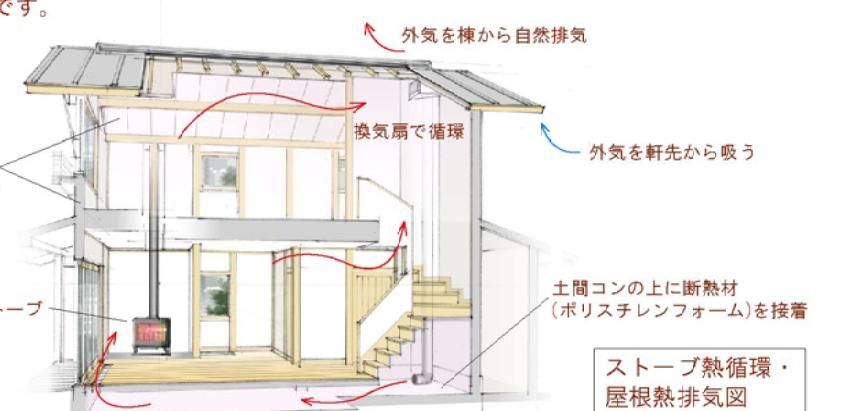
### 2 将来成長

● 汎用性の高いシンプルプラン  
内外ともバリアフリーで、寸法はメーターモジュールなので、車椅子の方でも自由に生活ができる、終の棲家(在宅介護可)となります。  
将来にはミニ託老所、託児所、集会所などに利用できます。

### 3 環境対策

● 省エネルギー・再生可能エネルギーの活用

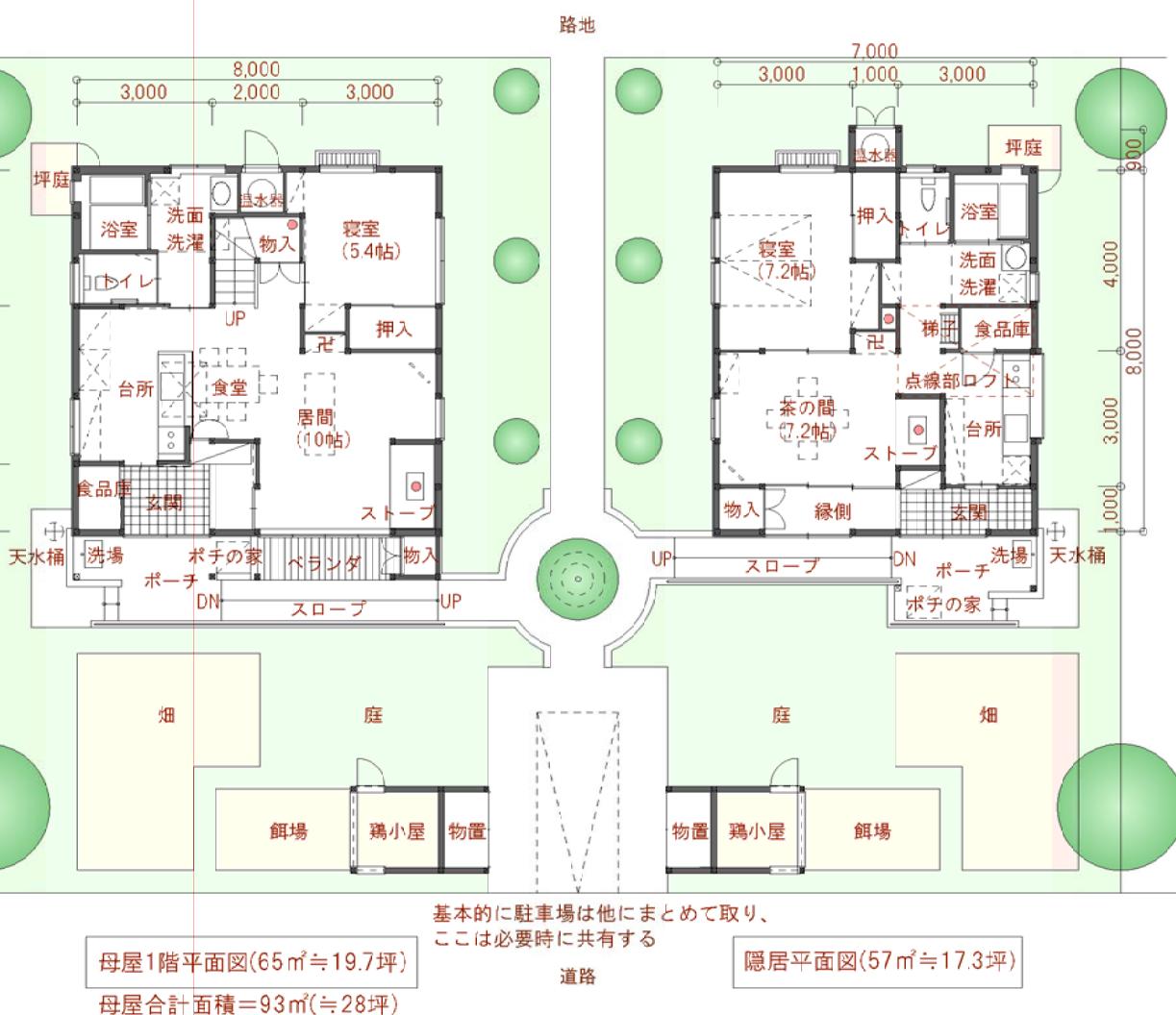
暖房は薪又はペレットストーブで賄い、天井に溜った熱を循環させて床を暖め、晴天には直接太陽を頂く気持の良い方式です。また夏の屋根の熱は自然排気し、また打ち水(雨水)などで冷房負荷を減らします。パッシブソーラー(床暖)やソーラー発電も可能です。



床下断熱材



壁断熱材吹込み



母屋2階平面図(28m<sup>2</sup>≈8.5坪)  
母屋1階平面図(65m<sup>2</sup>≈19.7坪)  
母屋合計面積=93m<sup>2</sup>(≈28坪)

基本的に駐車場は他にまとめて取り、  
ここは必要時に共有する

隠居平面図(57m<sup>2</sup>≈17.3坪)

### 4 廉価

自然素材の家はコスト的に限度があります。そこで耐用年数(30年と100年)を比べたり、環境を考える時期に来ていると考えます。

● 効率的な施工による無駄の削減

母屋と隠居の木材は共有し、種類も少なくすれば余分な手間が省けます。また工場製作が多いので、天気に左右されず無駄が省け、経費の削減と製品の品質保証にも繋がります。

● 工期短縮

構造体の加工やパネル組み立ては工場(基礎工事の前)で行い、現場施工の工期を短縮します。

● 資材ルートの確保

左下の生産・供給の合理化に同じ。



工場での構造体組立

構造体の据付

### 5 地域適合

● 気候風土に合わせた施工・外観

地域の木材は地元で伐採し、製材と施工も地元の業者でやる、昔からの形を継承します。形は伝統建築に多い切妻とし、屋根の向きにより、南に閉じた形(隠居)は「感謝の気持ち」を表し、南に開いた形(母屋2階)は「困難に立ち向かう気持ち」を表します。

● 地域の材料の活用

材料は木材、断熱材も含め地域を優先し、予算の60%以上の地域循環を考えています。

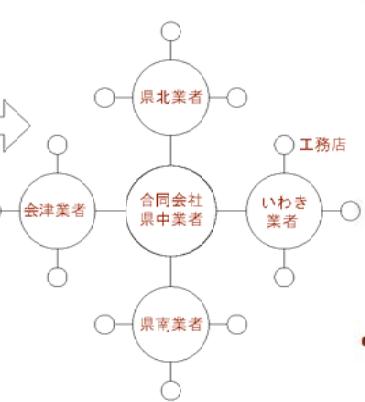
### 6 需要対応

● 地域内での連携

各地区に中心になる施工業者を置き、その地域の小さな工務店を纏め、連携を図ります。

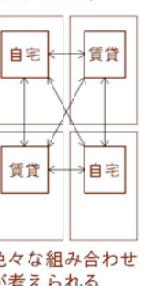
● 地域外からの応援

今回30社が採用されれば、30種類の売りがあると考えます。この「点」を纏め「線」から「面」になれば、ハウスメーカーと十分渡り合える形が出来ると思います。



### 7 自宅と賃貸住宅の提案

- 自宅と賃貸住宅をセットで建てる事は、貸主と借主の双方に利点があります。貸主は補助金等の優遇条件で建設した後も賃貸で収入が入り、借主は建設資金が無い人でもマンション等より好条件の住まいを得られます。また、家族構成の変化にも引越す事で対応できます。
- 実施の際はFP(ファイナンシャルプランナー)に関わってもらい、勉強会を開きながら進めたいと考えています。



色々な組み合わせが考えられる